俳諧季題集　中

へ 5
4665
2

名所手頸集中巻三之目錄

○橋之部 并渡

石橋ヲ丁 ○大橋ヲ丁 ○橋守ウ丁 假橋ウ丁 ○棚橋ウ丁
○鈎橋ウ丁 ○土橋ヲ三丁 ○野橋ヲ三丁 小橋ヲ三丁 紫橋ウ三丁
山城
○淀ノ橋ヲ四丁 ○通天橋ウ四丁 宇治橋ウ五丁 白川橋ウ八丁
○四条橋ウ八丁 戻橋ウ八丁
大和
粂ノ岩橋ウ五丁 佐野渡ウ七丁
摂津
○四ツ橋ヲ四丁 長柄橋ヲ五丁 ○住吉橋ヲ九丁
伊勢
○田村橋ウ四丁 ○宇治橋ウ五丁 ○朝明橋ヲ七丁 三渡リヲ八丁
三河
○矢矧橋ヲ六丁 八ツ橋ヲ六丁
遠江
濵名橋ウ六丁
駿河
○藤橋ウ六丁
甲斐
猿橋ウ七丁
相模
花水橋ウ一丁

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏
寄贈

門 へ5
號 4665
巻 2

武藏

○日本橋オ三ノ ○常盤橋オ三ノ ○戸田渡オ三ノ ○両國橋ウ三ノ
○鎧渡オ四ノ ○多摩渡ウ四ノ ○鶴見橋オ五ノ ○江戸橋オ六ノ ○寒サ橋オ八ノ
○緑橋オ八ノ

下総

真間継橋ウ六ノ 巨我渡ウ六ノ

近江

東八橋オ三ノ 瀬多橋ウ八ノ

信濃

棧ウ三ノ 条路橋ウ五ノ
○雲井橋オ六ノ

陸奥

緒絶橋ウ三ノ ○山鳥渡ウ六ノ

越前

浅水橋オ七ノ

越後

名古継橋ウ五ノ

丹後

天橋立ウ七ノ

○川之部

○石川ウ九ノ ○小川オ九ノ 川原ウ九ノ 川追ウ九ノ 川上オ十
川風ウ十ノ 川添オ十一 ○川漲ウ十一 ○川下ウ十二 川渕オ十三
○門川ウ十ノ 夜川ウ十ノ 谷川ウ十ノ 夏川オ十一 野川オ十一
○大川オ十一 ○宗川ウ十一 ○藪川ウ十一 山川 冬川オ十二
○枝川オ十二 ○淺川オ十二 朝川オ十二 ○脊戸川ウ十二 ○砂川ウ十二

山城

泉川オ十三 堀川ウ十三 鴨川ウ十四 紙屋川オ十五
桂川オ十五 淀河ウ十五 紀川オ十六 宇治川オ十六 大炊川ウ十六
○木津川オ十三 瀬見小川オ十四 芹川ウ十四

大和

芳野川オ十六
○竜田川ウ十六 夏箕川ウ十七 飛鳥川オ十七 佐保川オ十七

摂津

生田川オ十七 ○長柄川ウ十七 呉服川オ十九 湊川オ十七

伊勢

五十鈴川オ十七 涙川ウ十七 ○雲津川オ十九 櫛田川ウ十九 ○朝明川オ廿一
御裳濯川ウ十七

遠江

○大井河オ十九 ○天竜川ウ廿

駿河

冨士川ヲ廿　○瀬戸川ウ十四　［甲斐］石和川ウ十三　○子酉川ウ十七
［相模］○滑川ヲ十八　○酒匂川ヲ廿一　［武蔵］○入間川ウ十三
○巴川ヲ十四　○小名木川ヲ十四　玉調布川ウ十六　○立川ウ十六　○鶴見川ウ十七
○古利根ヲ廿　○小松川ウ廿　○浅草川ウ廿一　○綾瀬川ウ廿一　○木下川ヲ廿三
○三ツ股ウ廿三　墨田川ウ十四　［下総］刀根川ヲ十四　○絹川ヲ廿三
［常陸］○晒川ウ廿二　櫻川ウ廿二　美奈野川ウ廿三　［近江］
玉野路川ヲ廿七　田上川ヲ十七　矢洲川ウ十九　［美濃］○長等川ヲ十六
○抗瀬川ウ十九　関藤川ウ十四　［信濃］千曲河ヲ十四　○犀川ウ廿二
更級川ウ廿三　木曽川ヲ廿三　○浣花川ヲ廿五　［上野］烏川ウ廿五
［下野］○大谷川ヲ十七　［陸奥］名取川ヲ十八　野田玉川ウ廿八

阿武隈川ウ廿一　［出羽］最上川ヲ廿四　［加賀］○淺野川ウ廿一
［越中］雄神川ヲ廿四　片貝川ウ廿五　鵜坂川ウ十八　［越後］
○阿賀川ヲ廿二　○信濃川ヲ廿四　［丹波］○丹波川ヲ十七　［丹後］
○二瀬川ウ廿　［筑前］藍染川ヲ廿二

○滝之部 并瀬岸

川瀬ウ廿五　○滝壺ウ廿五　○小瀧ウ廿五　早瀬ウ廿五
鳴瀧ウ廿六　山吹瀬ウ廿七　清滝ウ廿七　［大和］
［山城］布留滝ヲ廿七　［摂津］○玉出岸ヲ廿六　大江岸ウ廿六　［相模］
○片瀬ヲ廿六　［武蔵］○綾瀬ヲ廿七　○数寄屋河岸ヲ廿八　［美濃］

○養老滝オ廿七 〔信濃〕 小野滝オ廿六 〔下野〕 ○裏見滝ウ廿六

○霧降滝ウ廿七 〔紀伊〕 那智瀧ウ廿六 音無滝ウ廿六

○江之部 并沼沢渕池田

入江ウ廿八 儀田ウ廿八 沼田ウ廿八 小田ウ廿八 門田ウ廿九

○棚田オ廿九 谷田ウ廿九 田中ウ廿九 田舟ウ廿九 繫田オ三十

○沛田オ三十 山田オ三十 古江ウ三十 ○古池ウ三十 深田ウ三十

○古田ウ三十 冬田オ三十一 篭江オ三十一 ○沢田オ三十一 水田オ三十一

溪田ウ三十一 ○新田ウ三十一 ○脊戸田ウ三十一

〔山城〕 鳥羽田オ三十二 廣沢池オ三十五 〔大和〕 猿沢池ウ三十四

〔摂津〕 難波江ウ三十三 浅澤沼オ三十四 〔駿河〕 ○倉澤オ三十四

〔甲斐〕 ○鰍澤ウ三十二 〔相模〕 ○児ヶ渕ウ三十二 ○鳴立沢オ三十五

〔武蔵〕 金澤ウ三十三 ○鐘ヶ渕ウ三十三 ○姥ヶ池ウ三十三 ○鮫渕オ三十五

狭山池オ三十五 ○不忍池オ三十五 〔下総〕 ○印旛沼オ三十二 勝間田池オ三十三

〔近江〕 真野入江オ三十四 〔信濃〕 ○田毎オ三十三 ○櫻澤オ三十五

〔下野〕 ○阿曽沼ウ三十四 〔陸奥〕 浅香沼ウ三十四 〔越前〕

玉江ウ三十三 〔越後〕 ○岩澤オ三十二

○井之部 并水 温泉

春水オ三十六 忘水ウ三十六 筧ウ三十六 ○筒井ウ三十六 埋水オ三十七

○井出ヲ三十七 山水ヲ三十七 山ノ井ヲ三十七 ○古井ウ三十七 水上ウ三十七
【山城】縣井戸ウ三十九 若根水ヲ四十 【伊勢】忘井ウ三十八
【相模】○星ノ井ウ三十八 ○温泉地獄ヲ四十 【武蔵】逃水ヲ三十八
堀兼井ウ三十八 ○井之頭ヲ三十八 ○御茶ノ水ヲ三十九 ○姫ヶ井ヲ四十 【下総】
真間井ウ三十九 【常陸】○恩潮井ヲ三十九 【近江】走井ヲ三十八
醒ヶ井ウ三十九 ○関清水ヲ四十 【信濃】○諏訪湯ヲ四十 【上野】
○伊香保湯ヲ三十八 【加賀】○山中湯ヲ三十九

四之巻

○海之部 并浦濱

○春海ヲ四十一 濱邉ヲ四十一 濱風ヲ四十一 ○濱庇ウ四十一 浦風ウ四十一
荒海ウ四十一 秋海ヲ四十二 ○塩濱ヲ四十二
【摂津】三津浦ウ四十八 須磨浦ウ四十九 住吉浦ウ四十九 【伊勢】
伊勢海ヲ四十二 ○鼓ヶ浦ウ四十四 二見浦ヲ四十六 阿古木浦ヲ四十七 ○白子濱ヲ四十九
【尾張】喚続浦ウ四十三 【遠江】伊間浦ウ四十二 ○今切ウ四十二
【駿河】田子浦ヲ四十四 三保浦ウ四十八 【伊豆】○伊豆浦ウ四十二
伊豆海ヲ四十三 【相模】由井ヶ濱ヲ四十八 【武蔵】○乙艫浦ヲ四十三
○六浦ヲ四十五 ○芝浦ヲ四十九 【上総】千種濱ヲ四十三 黒戸濱ウ四十五
○九十九里ウ四十五 【陸奥】千賀浦ヲ四十三 外ヶ濱ヲ四十四 ○吹浦ウ四十六
塩竈浦ヲ四十九 【越前】氣比ノ海ヲ四十六 【加賀】竹ノ浦ヲ四十四

越中 長濱ウ四十四 名古浦ウ四十四 有礒海ヲ四十七 越後
○名立濱ヲ四十五 ○親不知ヲ四十五 越ノ海ヲ四十七 佐渡 ○佐渡海ヲ四十八
丹後 与謝海ウ四十三 但馬 雪白濱ヲ四十八 播ナ
○舞子濱ヲ四十六 明石浦ウ四十七 備後 玉ノ浦ヲ四十四 紀伊
和哥浦ウ四十三 吹上濱ウ四十六 讃岐 華ノ海ウ四十六 ○在明濱ウ四十七
豊前 ○柳ヶ浦ウ四十五 ○菊ノ濱ヲ四十六

○湖之部

遠江 ○猪鼻湖ウ五十 近江 ○鳰ノ海ヲ五十 堅田浦ヲ五十
余古海ウ五十 矢走浦ヲ五十一 湖 ウ五十二 志賀浦ウ五十 信濃
諏訪湖ウ五十一 下野 ○哥ノ濱ウ五十 越中 布施ノ湖ヲ五十二

○島之部 并澙礒崎岬湊追門

○礒家ウ五十二 ○礒邉ウ五十二 ○遠浅ウ五十二 川島ヲ五十三 ○小礒ヲ五十三
荒礒ヲ五十三 嶋根ヲ五十三 亇潟ウ五十三
山城 槙ノ嶌ウ四十九 攝津 田簑嶋ヲ五十七 ○築嶌ヲ五十七
伊勢 伊勢島ウ五十三 小野湊ヲ五十五 辛洲崎ウ五十五 二見潟ヲ六十
藤潟ウ六十 酢我島ヲ六十三 志摩 伊良古崎ウ五十三 ○鳥羽嶋ヲ五十五
尾張 星嵜ウ五十四 駿河 清見潟ヲ六十二 三保嵜ウ六十二
甲斐 指出礒ウ六十一 伊豆 ○伊豆嶋ヲ五十四 相模

○鶴嶋 ヲ五十八 小余呂波礒 ウ五十 武蔵 庵嵜 ヲ五十四 ○佃嶋 ウ五十七
○夏島 ウ五十七 ○向嶌 ヲ五十八 ○牛嶋 ヲ五十八 野島埼 ウ五十八 ○真嵜 ヲ五十九
○洲嵜 ヲ五十三 安房 ○太夫崎 ヲ五十七 野島 ヲ五十九 ○小湊 ウ五十
○安房岬 ヲ五十一 上総 海上潟 ウ五十八 常陸 鹿嶌 ウ五十五
○扇島 ヲ五十二 信太浮嶋 ウ五十二 近江 辛嵜 ヲ五十六 信濃
衣ヶ崎 ヲ五十一 陸奥 雄嶋 ヲ五十五 笠嶋 ヲ五十六 松嶌 ウ五十九
籬ヶ島 ヲ五十 出羽 象潟 ヲ五十二 越前 ○鐘ヶ嵜 ウ五十六
能登 ○能登岬 ヲ五十九 佐渡 ○佐渡島 ウ五十一 播磨
播ヶ浮 ウ五十四 明石浮 ヲ五十一 明石灘 ヲ五十一 備中 神島 ウ五十六
淡路 淡路島 ウ五十一 阿波 鳴門 ウ五十七 讃岐

○八島 ヲ五十九 筑前 筥嵜 ウ五十四 鐘ヶ岬 ウ五十六 ○桂潟 ウ五十六
豊後 ○和布刈迫門 ウ五十一 豊前 姫嶌 ウ五十二 肥前
梅ヶ嵜 ウ五十八 ○松浦浮 ヲ五十
○津之部 并泊 淀 塘 瞹
山城 ○鳥羽畷 ウ六十三 ○久我縄手 ウ六十四 大和 六田泊 ヲ六十四
和泉 ○牧方 ヲ六十六 摂津 難波津 ヲ六十四 ○岸和田 ヲ六十六
伊勢 ○安濃津 ウ六十五 尾張 ○佐屋泊 ウ六十五 武蔵
○熊谷堤 ウ六十四 下総 巨我堤 ヲ六十五 ○銚子津 ヲ六十五 越中
○魚津 ウ六十四 越後 鯨波 ヲ六十五 寺泊 ヲ六十五 播磨

○高砂オ六十四 ○室津オ六十四 備後 ○鞆ノ津ウ六十三 紀伊

○加田泊ウ六十三 筑前 荒津ウ六十五

田喜庵護物輯

○橋之部

石橋

石橋もふみ見や山路の菊の花　袁丁

石橋をとる手庵の秋の若清水　菓谷

石橋をふみて人のまつ帽の岩　筍亭

○大橋

大はしに夜明の遠しかくる霧　草雅

いぬ橋をわたりて古人やさらしかす　弘湖美

炬燵して大橋かけるこゝろ哉　春路

大橋の蓑子ふところまて雨のあれ　護物

○橋守

橋守は龍田にまつり待つの加ゝな　如龍

もちもも妻子もちて橋の月　多代女

蜆汁月の橋守見えかゝる　舟静

橋守のさゝふてえ扇の菊　護物

假橋

川上のかり橋の添苗葉　一具

假そめにたのみ持なし霞の形　一路

このまゝ橋やいなさ白雨を呼小路　里済女

○棚橋

棚橋や枝によりつる窓の虫　巴人

まさか橋やよしかゝる子に蛍　士朗

○釣橋

涼しさや釣橋に山寄唐の夜八景　五晲

○土橋

涼しさの橋にたつ虎も夜興曳　護物

土はしや露の手草紫の形　白雄

花ちるや川鐵の土橋宿　菱垣

苅萱の雨に流るゝ土橋の角　雨六

○野橋

駒鳥に角の尾を比く野橋の形　一肖

冬の日は涼しきみに見ぬ野橋かな　悳行

小橋

鶯をきゝてしをせぬ小橋の角　保吉

五月雨やその小はしも新なり　美ち蔵

家しらぬ小橋にかゝる行ゑ子　多代女

花ちかくまたもまたも涼し小橋より　爐扇

紫橋

紫はしや出ぬけてもちる山桜　素撲

紫橋や窪まで来る秋の雨　梅壽

遠江　濱名橋

星合やちる濱名も芋なれば　菊也

初霞も濱名のはし八つの字　左来

雪の日は濱名の橋も有て流し　一壺

咲ぬ間も薫も濱名の橋の詠　眞侶

見へ今は濱名の橋をかへりけり　見代女

相摸　花水橋

風邪の花水はしの氷かな　奥ふく

餅花ハ花も橋も霞かな　江戸　雪人

武蔵　○日本橋

あけぼのの鼻途や霞も日本橋　存義

冬の日や旅人通る日本はし　湖十

乙鳥のちらちら飛ぶや日本橋　斗月

仝　○常盤橋

八朔やうちなほる常盤はし　宗讃

さまざまや橋の流む常盤橋　谷雄

美紫の白ゆく東眺て常盤橋　松知

仝　○戸田渡

藤ちる戸田の渡し二日月　宗讃

ゆくしや霞める戸田の渡し口　草雅

霜ちる渡る戸田の渡しの横時雨　美丸女

近江　唐橋

ところ／＼は橋につゞくや霞哉　菖三

○武蔵 両國橋

裏のはし渡る日はゆかし舞　來汐

ところ〴〵の橋の名ながれての川　梟二

東の橋くれひろかる葉月かな　衣月

橋二本両国橋のつれ〴〵　宗讃

両国のはしも月東や川施餓鬼　嵐山

行通し両国橋の走り舟　玄鶴美

陸奥 緒絶橋

つま恋しやをだえの橋の夜の霜　佛仙

玉ゆらもふや緒絶の橋の上　玉光

信濃 桟

三度まで桟越ぬ秋いのち　蝶夢

かけはしや駒の嘶るときを冬　椿堂

かけはしや余所に見て来る草の花　耳行

桟の雲ふみわけて落る紅葉の菊　叢

桟や日ハ行尽て暮る渡りし　小圃

○山城 淀ノ橋

鍋提て淀の小はしを雪の人　蕪村

星合に淀のそりはし見ゆる操ぬる　東畝

○摂津 四ツ橋

明月やかけかへ橋の子柱　白雄

四ツ橋や巨燵の下に跳ねかへる　守三

四ツ橋や東ハ川崎てゝ時雨　斗圃

ほり橋の夕日をかざす扇かな　從之

○武蔵 鐙ノ渡

ゆくや牡丹鐙の渡し見ぬ身に　曰人

○伊勢 田村橋

○武蔵 多摩渡

○山城 通天橋

なかの菖蒲揃て鐶のつなし哉　沙明

万葉も末ふ櫻の渡しかな　梅壽

霧に隠れてもしるし田村橋　雀觜

蕣やしほに子のもてあそぶ田村橋　箕山

草やもしる田畑の田村さし　護物

梅折てみるよ多摩の渡かな　白雄

月の影一ツ多摩の渡しかな　衣用

夕涼し多摩の渡しの十日月　筍亭

通天や紅の錦もこぼれ紅葉　柳園

通天の紅葉折ふ夕日かな　奈良汐

○武蔵 鶴見橋

○摂津 長柄橋

通天も月あかりや紅葉なし　心逛

草の戸も人もちりぬる鶴見橋　美芳

おほろ夜の門もそれや鶴見橋　暮玖

東風や旅のあしをとむる橋　雨考

ちる川や風をくぐる鶴見橋　一瓢

咲く花は日比ハ移る鶴見橋　千かゑ女

まつ霞も長柄の橋もの何也　蓼太

住まひや長柄の橋ハ跡もなし　美おき

春の月や長柄の橋と東の月　蕉雨

初春やや長柄のなしの橋の杭　詠帰

越後
名古速橋

徒ゞしや佐渡へ五りの蜀魄　石年

稲妻や猪橋ハ波の音はかり　譲物

山城
宇治橋

宇治ことの昔も今日月に清　阜二

須臾の世の春や宇治の橋まくら　喜丁

伊勢
○宇治橋

宇治こし跡畑にまて涼む蛍かな　巴人

宇治橋や妻目露を畑の上　子湾女

大和
条岩橋

このハほとや豆ハ久米路の其の下　闌更

蒲る莫や久米の橋枕に寒日　杉長

信濃
久米路橋

山吹や久米路の橋ハ入ても外に　士朗

枯るゝ雨や久米路の花し散欠　可亭

久奈
也宇

仝
○雲井橋

雨の月雲井の橋とよまれたる也　叢

二のまへハ雲井比橋よ垣こまれ　里湾女

三河
○矢矧橋

八橋や矢矧の橋の人通り　宗讃

その小坂の矢矧の橋や投頭巾　完来

山鳥の矢矧のましや東ハ冬　日人

朝霞や橋の風も妻のかす　梅寿

仝
八ツ橋

八ツはしの燕もすくなき時雨哉　松兄

八ツ橋のいつハ八ツ又足稲かな　一肖

其の月ハ八ツ又越え宿とる　一化

八ツ橋へ扇ひろけてまゐりけり　茶静

陸奥 山鳥渡

積水ハ東ハ山鳥の渡しかな　旬光

山鳥ハ渡しとよんでさくらかな　春路

よんで見ん東ハ山鳥のわたし守　讃物

下総 真間継橋

継かけし秋田も早稲かる家まで　日人

てらす風や人のこゝろの真間の橋　草均

継かけて夜来し声の雨まじり　秋朝

夢見よと山月の継橋こゝろせよ　一樸

駿河 藤橋

藤ちりて越路やさゝぬや尾花刈　越中 許山

藤なしや人青苔く風ぞ渡る　衣月

下総 巨我渡

雪ちるや巨泉のわたり鷺戻る　棠二

不河末江也古

武蔵 江戸橋

大江の走る流れ巨泉のつゞく船　元風

船白帆や巨泉のこゝろ詠手の旅　春路

走る秋霧をかすへて祥泉の渡りかな　讃物

江戸をしる潮のめぐりや松魚哉　美ち哉

江戸橋を通る手々にや初茄子　梅星

江戸橋は二百十日も月夜哉　汐明

伊勢 朝明橋

卯の花や船路の橋は家の前　大梅

青山を橋ぬらしぬ朝あけ橋　樗山

越前 浅水橋

あさむつの橋は踏る登る船　雪鷺

渉むつの橋青かりし雲のなる　松杜

丹後 天橋立

橋立や尾流れふさ人おもて白旗　素芯

橋立の表を押出して冬の海　弄山

はし立をかゝる時の東風の船　凉谷

橋立てや日の影かくす霰の音　里場女

橋立や海のかすみを雲の峰　珠弓

大和 佐野渡

ワた汁や佐野の渡りの鮭の旬　棠李

草臥し佐野の在家やかつら　渋水

甲斐 猿橋

猿橋や亀悉て角ちらす　雪甫

さる橋や露ふる峠に霊迹　鼓氷

猿橋や吹はまつ川で秋の暮　蔦三

猿橋や渡るときを秋の水　守橋

猿はしや影くもりし四十雀　譲物

武蔵 ○寒さ橋

鰻捨てゝ中々や月東の寒さ橋　義ち長

土筆柳や雛奥売ても寒さ橋　里丸

夜店明らし雁の目細し寒さ橋　桟東

かゝしらや寒さ橋行秋の暮　渋水

伊勢 三渡り

二渡りや汐より先を渡りさす　丑呪

三わたりや秋の常社汐が原　左来

武蔵 ○縁橋

何ハ雪ふ飲日もまし見をり橋　梅壽

妻あとよよ猫も月東のこと橋　其桂

菊提て掛ちる勇ゝしき橋　護物

山城
白川橋

本ゝしや水川橋に流しつ足　宇橋
夕涼の夜や白川橋に灯のかく　一樓

仝
四條橋

名ゝ月や四条の橋か書つれし　蝶夢
初雪の跡流して渡しや四条橋　玉光

仝
戻橋

鎬汁や鬼の子か、ゆく／＼も戻り橋　成美
もどり橋いく度越ねる秋哉　古推
まつ宵や宿の子連てかへり橋　似暁

近江
瀬多ノ橋

橋ふみよるの氏まもりし瀬多の橋　美ち彦
ほとゝぎす鳴すぎ流しもその橋　武陵

攝津
○住吉橋

唐くにへ渡りなば八雪の橋　湛石
袷着て行くゆく行や渡るの橋　黙巣
寒く見る涼しいさゝか瀬多の橋　雉咏
行よし我橋ゝ見ゝつ南くて寸　士朗
住吉や春風かよふ橋の下　筍亭

〇川之部

〇石川

家ちるき石川ごしは舟なから　保吉

石川や神の下ゆく雲の峰　言丁

〇川原

一雁並ぶあらし日の出る川原哉　士朗

春風や河原おもてを吹わたる　亭橋

山ひとつまだ晴ぬ程の川原哉　楽水

挟町の霞ける秋の川原かな　蛙堂

夕立や日暮て白き蘇川原　一具

川邊

向のよき川邊の家や冬の月　斗月

志らゝと葵見えゆく川邊哉　星谷

うるほひの草に秋ある川邊哉　不玉

小川

すゞしさや鮎の去り行小川かな　蕪村

ちり溜のよりし萩に秋ふる小川　星譜

二節に接もうつ新小川哉　椿堂

萍流す小川果なし鵜の声　東路

川上

篝火も散る川上遠きくもり哉　保吉

川ちかや夜明ても替ろつもり　一肖

川上の日和も須磨流れけり　默巣

川上の雨をしらする雲の峰　大梅

何かしの雲をし流すや雨となす　梅壽

川風

川かせや鵜縄つくらふ小舟の上よ　几董

川風に鷺をつけゝる清瀬の菊　寄渕

川かせの東より寒し彩ゝ　木雄

河風や小松かもとのむら乃葉　其峰

門川

門川の底にも入ぬ杜の宮　石羊

門川に流るゝ芥子の花株哉　萩香

夜川

まれ人の夜川を越る車の雨　暁臺

大橋や夜川を見る星の霧　士朗

谷川

谷川の音をとゝむるや夜ふかし　召波

谷川や多くの紅葉の絶る水流し　擣衣

川添

川添や乙鳥のつかむ若菜茶　保吉

川添に人のあつまる夜の月　玉蓬

川添は柳まさぬ家八軒に家　杉枝

葭川

葭蛙や小橋のかけゝる夜川添　萋桂

夜川やとしたれ麻をうけ　詰明

野川

その日より梅に流るゝ野川の水　召波

河るゝ中に野川流るゝ女郎花　白雄

蹴鞠に身で飛あはん野川の香　擣堂

陽炎に薄墨する野川の菊　砂粒

大川

さゝら水や大河をあふに家二軒　蕪村

○宗川

稲つまの光さへ流るゝ河哉　素芯

大川の背とも光し末の宗　くま女

宗川ハ先字をかつ千鳥の舟　美ち成

おや川をかけてゆかしき稲の角　卓堂

宗川やさゝやきゆる鮎の後　杉枝

○川隈

川くまに星うけながし渡し舟　了湯女

川隈のたもとに浪る柳かな　雪峰

○藪川

藪川に居る雲る切れ声　保吉

藪ちかくや梅をさそひの藪河原　季珉

山川

山川や雪解はしる梅の日ぐらし　春明

於加也
不江阿

冬川

春の夜の水やとこしへ山の川　南部　和友

風らけや芝に折る冬の川　擇良

冬川や山の寺ておきし橋　東芳

薄暮やいくたびへし冬の川　連志

○枝川

枝川や夜嵐さまよふ秋の影　仙斧

枝川も桃の流るゝ岸の果て　蜀亭

○淺川

淺川の水も流るゝ山家哉　太祇

淺川や月をよけ行出来ること　几董

淺川や水鶏子先をつくら声　宇橋

朝川

朝霧の影川ながるゝ雪解の前　白雄

鉄川や筏おろせる鴨の啼　菱垣

鉄川の日に向て啼小鴨かな　雪賀

○川下

夕風や菜きるの川下に蕣なし　白雄

川下や水も流れて夕ぐれ　谷雄

○脊戸川

脊戸川やてるまゝ引てもとの蛍　升六

脊戸川の来てを押出す水かな　鹿太

せゝら川の風吹通す蚊遣哉　月丘

○砂川

砂川やあるひハ蕪を流れ越す　蕪村

砂川や蛍のまくる夏の月　樗堂

稲つまの清くてあそぶ砂川原　奎議

川渕

ちらちら啼川渕の蔦枯て行　樗堂

雲雀鳴て夕日のさゝふ川渕哉　田都善

人うけの川渕すつる寒の水　沙明

山城　泉川

春の日流れ出るやいつミ川　可都里

一筋や水流るゝいつミ川　且堂

摂津　生田川

いく田川旅籠の鬼の流るゝ　一具

花梨木のよこ散るや生田川　亀貞

伊勢　五十鈴川

かくしかし世ハ清し五十鈴川　野雀

ちる色の露もかくしいすゞ川　一穂

甲斐
石和川

影ろふや鷹もつかれぬ五十鵜河　護物

ゆくとしもぬるきてるとぬいさわ川　葛三

武蔵
○入間川

うつせみの声や若葉に飛しいさわ川　里倩女

明月や角すゝけたる入間川　壺羊

わか菜つむ川上遠し入間の秋　可都良

草螢にて流るゝ星や入間川　樗梁

柳ちる影ゆく月のいるま川　且臺

川鴨のまた水凄や入間川　美佐女

さつき川や家の手前車の年　太祇

山城
堀川

春風や綿の堀川ぬつく葛かな　召波

堀川の月よも遠き夕のたち鼓　松語

武蔵
○巴川

只中へてらす月やともえ川　玉蓬

笈摺に此夜月寒し巴川　路人

樹間のはいとゝうす月巴川　雪麿

下総
刀根川

夢ゆの雪利根も埋もる鵜の際　美ち女

刀根川の水に雨きく夜寒かな　舊父

と根川や月半輪に動きけり　多代女

利根川や又も汲かる雨の客　南竹

帆舟切く漕来る刀根の流れ哉　吐山

信濃
千曲川

瀬しらすに鵜ふかく千曲川　麻直

稲妻や二筋かゆるちくま川　叢
ふるすき千曲の渡や来の秋　亀丈
木の葉にも小もんや千曲の川千鳥　柯雪
冬の月や沖へなかれゆく千曲川　楽静

武蔵
○小泉川

縄もや木の葉くゞる小泉川　蓁蔵
血汐借らも小泉りても小泉川　護物

越中
雄神川

了ゑやす浪や河風の秋雄神川　樗良
雨気の鷺流れてかそらし川　玉光

山城
鴨川

夕も川を見るにかゝる扇かな　丘高
鴨川の水に涼しつ岩かな　五明

影に八かも川宵く…　素芯
夕も川の森に流るゝ花の影　芝蘂
鮎汲むけてもなつかしかもの水　多代女

仝
紙屋川

若葉つゝ人に落合ぬるゝや川　暁臺
千鳥鳴まてその如き紙屋川　騏道
冬の花ほとゝ水あるかや河　烏頂
水ひとく冬のこゝろも紙屋ゝの音　草均

仝
桂川

梅さく秋おもしろきまゝや川　明良
飛鮎の光りや月のうつる川　二柳
切ゝる声に桂の鵜さへ…　一蓑

蘇さゝや潮ハ流るゝ桂川　鯉登

鮎くむや更る月夜の桂川　輪之

移りつく北や月の中なるつゝ川　詠帰

上野 烏川

春の夜の声ハ諸まて烏川　松兄

鵜の影もうつりさかさ波や鵜川　一小月

越中 片貝川

片貝てとゝえら水も雲の裏　美奈袁

かた貝や五月の雨ほさる片かる　其行

山城 淀川

淀舟や何所へ行まてもの川　烏頂

よど川の十日の菊の上ほとり　月江

淀舟や来る秋の二つ人あ　寿翁

織八の舟や淀の水光り入　其行

淀舟や夜をいはひて明やさき　一桃

大和 吉野川

花に来し桜は見し吉野川　蕪村

山吹に筏の中をよし野川　暁台

中に落る星や七夕をよし野川　大江丸

夕くれや鮎に鮓鳴芳野川　麦何

すさましや水の中にも吉野川　可景

山城 糺川

涼風の河原涼しやすゞ川　葵亭

蝉よりも夕くれ出来て糺川　蒼虬

秋の夜の月や来て渡らん糺川　素芯

大和 竜田川

すゝしさや下は小雨や紀川　草翁

もみち葉や柿葉押出す龍田川　圃暁

鶯の老おぼへたる龍田川　知壱

武蔵 玉川 調布

調布の垣にも芽さす茶かな　美知茂

玉川や八ちの月を綾の上　首父

玉川や汐まてくる碓の底　丈児

玉川の風筋ちらし小夜砧　其柳

まつくらや垣の月夜の菜の茶　梅壽

仝 ○立川

とちかやとて川に来る雁の声　守橋

さて川や鴨の浮ふて漂いて　沙明

立川も江戸の出はなや小正月　雉嶺

近江 玉川 野路

玉川の波よけてなきころもかな　暁臺

麦蒔や出路の玉川一すぢ　素芯

仝 田上川

みじかしと田上の藻も流されて　寄渕

田上や波に落行螢かな　壽丁

水きくや田上の渡し船にて　竹馬

下野 ○大谷川

菫菜の花もちらばる大谷川　草雉

いなづまの薄ひとつ光し大谷川　弘缓

丹波 ○丹波川

ちる水の紅葉あふるゝや丹波川　守豊

霧はれて月のかつらさし丹波川　星誘女

武蔵 ○鶴見川
甲斐 ○子酉川
大和 寛箕川
摂津 ○長柄川
伊勢 涙川

あさ風や絵筆をぬらす鶴見川　巣兆
ちる花さまけて日をるやつるミ川　旬光
雉子啼やゆふ月低き子酉川　百二
雪とけの藪よりさしや細り川　禾木
住遂しき庭よ東風の夜半の川　完来
ちり初て初も見えし夜半の川　圭洲
初虹のかけ始とん長柄川　玉光
明月やうつして棹さすなが柄川　元風
ゆく鴈のこゑまでうつくしなが柄川　手爰女
春雨る暁の子もなかるゝ川　一司

相模 ○滑川
美濃 ○長等川
陸奥 名取川
山城 宇治川

遷宮のまへにながるゝ川　護物
名ぬや薄を水仙ながるゝ川　小圃
稲妻のくもちておろし滑川　希粘
罪もむくひもやもの川にちる櫻　士朗
三日月を露もうつるもなが川　杉窓
涼風に凍しさる人も長等川　其翼
秋ちかや名なきもし名とり川　菊角
駒なくやはつもしみの名取川　一司
山吹や宇治の川霧立ちはし　一具
雨きいて東むかふ宇治の河　艸夫

春雨や宇治の川づら雀ちる　半賀
柴舟の流れて見えし宇治の霧　李峰

越中
鵜坂川

陸奥
野田玉川

山城
大堰川

泉から形小さう流しや鵜坂川　甘行
わすれ形見えてる帯や鵜坂川　玉光
菜の日あてにしつゝ野田のむら千鳥　桂山
鞍をあてもそらへ野田の雨　梅寿
月光や花の影ある大堰川　樗良
山うつす霞おぼろき大堰川　暁臺
若宮の葦やうかれけや大堰川　鮮夢
大堰川うつるも月を見るなり　月居

遠江
○大井川

摂津
○呉服川

伊勢
雲津川

大堰川さてちる花のさかりかな　樗堂
菫さく岸もなかりし大井川　松兄
雲雀鳴声のなかれや大井河　草均
水ていや氷る頃さし大井川　一水
わたりきて一瀬は末ぬ大井河　方甫
流れ木の余所にも流れ大井川　両賀
霞めて東を池田の呉服川　寛里
青柳や西日横ふる呉服川　玉光
雲出まで流れはけふや花の雪　李臺
まつ宵や干して流しし雲津川　知牛

哀れさや雨降へもどる油うり　臭雨

出水つゝみ草をも流れぬ雨床川　白挂

仮橋の雨床を明ける郭公　泠水

仝
揺田川

菜の花のてりかへしけり揺田川　梅亭

揺田出て一房の雨今宵月夜哉　星濤女

早乙女の笠もちらし揺田川　蓬物

美濃
○抗瀬川

青柳の日も流れけり杭瀬川　杉長

春人形の菖蒲も去りゆく杭瀬川　元風

うけ葉も白きつゝしけり杭瀬川　春路

近江
矢洲川

手をひろげる暁見ゆや矢洲河原　一昊

白鳥や矢洲の川上秋の是　宁橋

矢洲川や千鳥のなける秋の雨　雪路

矢洲川の瀬の流しを見ゆる　箕山

駿河
冨士川

霧晴れをすゝきも白し冨士の川　美壽

不二川を流れいつるや春の冬　東蛙

郭公冨士河越る舟の上へ　蓬払

武蔵
○古利根

古利根や桜押しもまれ流れけり　政二

古き道や見えも出来く風の末　星谷

ふる刀杉や花も流るる春の月　ちき雄

古刀杉へ入れまる茶や行しまず　江戸 如水

○丹後 二瀬川

古利根やいさゝか濁て東の白　素融

百合の露芹の雫や二瀬川　守橋

夕立のふりかゝりゆくや二瀬川　葉舟

○武蔵 小松川

春の草すゞしき流れや小松川　古政二

菜咲て築たるかしや小壺川　布席

竹屑の影もちらぬ小松川　找車

○遠江 天龍川

乙鳥のかよふ流れ丁場の船　姜彦

夕霧や友まよふ船も瀬ちる雫　丹行

天竜の月も遙にまかすかな　奥文

夕暮へ持出し舟や梅雨の入　蒼苙

○大和 飛鳥川

夕霧や町に丁茶て梢尾花　大梅

飛鳥川水音さへも寒き日の有　大江丸

影うつる桜もかすむや飛鳥の川　蕉雨

○伊勢 朝明川

十三夜朝重戸取ぬや影明川　旦琴

松の霧影も山までかすむ朝明川　其碇

笠の影うつりて涼風の影朝明川　譲物

○武蔵 浅草川

影うつる涼しき浅草川や夕の川　東登

春をまつ浅くも川をながるゝ也　成美

山すそや浅草川のながるゝ　了膓女

東海の波くる川はよき名也　素鶴

仝 ○綾瀬川

夕すゞや綾瀬をもどる青簾舟　元風

杜若さくは清き音や綾瀬川　菊角

日ぐらしや田に見え越る綾瀬河　一摟

蜀黍の穂もつ畑や綾瀬川　箕山

柳ちる東風はそゝぐ綾瀬川　美佐女

陸奥 阿武隈川

はつ雪やこゝろも行く東の方　巣兆

武隈のさこそれんぞう阿武隈川　皆庵

はるかぜや虹のうけそしうけるかな　一宵

加賀 ○浅野川

月清し来鮭つゞむ浅野川　標良

涼しさや猿るを動く浅野川　白雄

越後 ○阿賀川

ゆきゝ戸口まで雪の阿賀野川　似暁

朝霧し乾いて曲る阿賀の川　鮭堂

筑前 藍染川

屋根ちる山風の筋や藍染川　護物

蛍やかはる藍染川の水の手　斗入

藍染の紅葉も見えぬ時雨かな　素汐

さほ姫や藍染川ハ水にも染　桟車

大和 佐保川

はつしぐれ名の佐保川を見えざりき　大江丸

佐保川や越てふところで蕗の薹　仙臺 斗山

相模 ○酒匂川

蓬生酒匂川の橋ハ落て人　不知作者

夕涼の月の浮きさしや酒匂川　双湖

○常陸 [illegible]川
松風も涼しさ添へし流し川　元安岐
黄昏や松の雫ちる流し川　崔角

同 櫻川
卯の花も咲けるさハや[illegible]川　英之
白浪も水の底ゆくさくら櫻川　皎月
水のゆくへ車の舎るや流れ川　里清女

○信濃 犀川
犀川の水まさる日や蘇の声　卓池
犀川の一瀬に落る木の葉哉　可有子
犀川や水の底ゆく秋の声　叢

同 更級川
流れし秋や月まつ宿の川原草　真侶
さゞ波や川風涼し月の笠　可亭

左 喜美

○山城 木津川
木津川ゟよみかへりや[illegible]虫　利雪
木津川や五月雨ぶさき夜の笛　甘円

○武蔵 木下川
子の星によ比木下川や田面の日　胡準
武蔵川にも見ゆる蘆の色　大梅

○下総 緒川
緒川やとちゝの霧も雨の雨　鶯道
緒川や六月はじめ夜の月　其翼

信濃 木曽川
木曽川の流ハ[illegible]　桜東
木曽川や雪の水に花桜　春草
木曽川や萩さく下をゆく筏　玉蓬

摂津 溪川
秋風や[illegible]流れ[illegible]の溪川　士朗

伊勢 御裳濯川

嗚呼と鳴きちる鶺よこゝあさ川　卓池

見わたしに只ありあけの溪川　叢

鹿のなくところもすそ川に渡りけり　士朗

春雨すゝや名残の汁の水明り　護物

武蔵 ○三ツ股

三ツ股や鳴呼と云ふに冬の月　宗讃

ちりまるや月の行方も流れ芦　菊後

三ツ股や揖むる附不ぬ彼去　守橋

常陸 美那の川

麻の葉やたま／＼におちて流るゝみなの川　蓼太

冬ごもりとむ人も霞みにみなの川　上野 乙人

稲妻や影しらみの美那の川　千年

越後 ○信濃川

色うつりすゝや信濃川　杦長

涼しさや雲の東西を信濃川　鮭堂

曙や霧に濁りし信濃川　五晄

出羽 最上川

最上川雪に押して流れけり　長翠

秋風や暗きおきまく流れる川　乙二

夕立や落ちくるくもりしもの川　一具

菜の花も晴れてなき最上川　夜鹿

都にてもとちもてよき最上川　鶏周

山城 瀬見小川

鶯や瀬見の小川を越しけり　玉屑

夏衣掛けし小川に越えて　士朗

仝 芹川
駿河 瀬戸川
美濃 関藤川
武蔵 墨田川

葛の月流してみせよの小川寺　宗古
佛名や流るゝの小川ハ流ちるゝ足　鷲笠
芹川の雪にまさる流や雪の暁　詠帰
芹川に芹なし月の秋に香ふ　護物
瀬戸川ハ露の中ゆく鈴虫する　利雪
雁を連て先瀬戸川の夜明かな　似暁
夜痩や冥の家川石流比　条静
まつ風や関の藤川　望越人　兎石
水也と蚌さへりしてすゝむ川　二川
夕ぐれて細蛙も秋墨田川　星谷

信濃 ○浣花川

人声や茶の煙よみすゝしの河　玄阿美
業平に縁ふ河墨田川　清風
寺の鐘の風有川子すや墨田川　其碇
汁くまもすゝむ川の流くる船　可厚
雪溶る浣花川や野かく　亀丈
浪白しまた也川の岸也くま　叢

○瀧之部 并瀬岸

○滝壺

滝壺をのぞけく声も霰ふるま　丹嶺

渕音や紅葉吹つる薄氷　東莪

○小瀧

竹串振て捕夫ともく小滝かな　白雄

青嵐ふくや小滝の重なりて　美知彦

○早瀬

鶴の嘴に落葉を見せて早瀬かな　五明

流れ木のさまゞ秋しぬる瀬哉　保吉

青柳をさる捨る雪の早瀬かな　湖山

○川瀬

冬川林の川瀬にさてる小笹哉　士朗

嵐山に咲花や川瀬の船朗　似暁

信濃 小野瀧

いと枝の間に比ゆるし小野の滝　以足

母子さく霞もとうかん小野の滝　其行

雪ころゝ春枯れ小野の滝　梅宇

○相模 片瀬

山吹に鮎も飛ぶやさくら瀬　詠帰

ゆく秋を何と片瀬の流すめ　袁丁

杉垣の手ハきる瀬の手向ぞ菊　一蕙

霞かく片瀬の夜をまち見るま　ます女

○摂津 玉出岸

杉ヶ月玉出の岸をやりとま　大江丸

杜鵑玉出の岸の波まし　旦臺

山城
鳴瀧

なる瀧の音信にぬれてや水菊で　恒九

鳴瀧の水てそゝくる乳ところ涼　東芝

紀伊
那智滝

初秋の松にかけさし那智の瀧　日人

紅葉やはふりも乱る那智の瀧　雈角

摂津
大江岸

棄いろゝ大江の岸や盆の月　宗讃

盆の夜や大江の岸も灯の影も　鮭堂

紀伊
音無滝

引くてもおとなしの瀧の葉かげ水　涼谷

音なしの瀧にちるらむ　椿くの花　箕山

下野
○裏見滝

たゝよし裏見てくゝる夏の滝　闌更

世の事をうらみしてゝん瀧時雨　屢中

奈於宇
也与不同

山城
山吹瀬

霧しまくらけや重ねの瀧の透　玉芙

杜宇からつまさうその瀧の重　里九

引まとも山吹の瀬にとゞめ置　心匪

山吹の瀬に河蓑の嵐かな　谷雄

ほとゝきす山吹の瀬はまくらみと　一具

美濃
○養老滝

老の先の瀧にうつるや菊の香　杕露

老の先へ投山日清く青田哉　讓物

大和
布留瀧

煙寒のりや布えるゝふるの瀧　桟車

小春の空の奥なき布留の瀧　菓二

武蔵
○綾瀬

曲てゝ手に蘋の何を綾瀬やゆく岸　菓兆

山城 清滝

春の月清滝の水より流れけり　茉波
夕やみや[illegible]滝を[illegible]時る　一肖
蝶追うて清滝の影を見ろしけり　柳哥
鵜啼て茶の声すむ清滝哉　湖山
清滝に似たる声も汲まし子規　葵亭
清滝や暮のやうなる鮎の声　蒼虬
清さ[illegible]や[illegible]ゆき[illegible]梅　李東
清滝や影比の其より来ぬけり　篆静
清滝や眉の艶しく卯の花　卓郎

○下野 霧降滝

川霧の降とハいはぬ滝の秋　来鷹

○武蔵 数寄屋川岸

霧降や滝の末まで呼子鳥　護物
雛白き馬も乗しく数寄屋川岸　北岱
菜のはなに数寄屋[illegible]すきや河岸　小園

○江之部 并沼沢渕池田

入江

通し鴨入江の秋をまちぬけり　白雄

霰振ふ声ハ入江の小舟哉　蒼虬

一羽の鳴に秋知る入江かな　一具

礒田

穂こゑやおのが礒田のわら葺鶏　暁臺

苗代に堰退けりいそ田かな　白雄

沼田

雨降や去し秋草を沼田　里傍女

菜の花や沼田へうけて二三本　素檏

秋のうたし扇ハ留主の露けき小田　默巣

小田

鶯や小田の夕日のとまりせき　星谷

水錆鳴や庭八本涼き小田つゝき　洗志

扇鴨に河ら流る小田や水ぬるき　魯傑

刈ものも手や小田の虫　碩翁

門田

流らぬ帰来門田の扇秋まつ　月居

頻鳴や門田も今も秋のうち　宜哉

梅手し門田春る移え鶴もえ　東哉

鶴ゟて梢芦る手し門田の日　笑壺

霍鳴にほのかも収き門田の秋　川哉

○棚田

棚田搭田さゝ水を早苗めぬ　羨知哉

苗をまて川 棚田さけしや風ゝるる　捋歌

人も来ぬ棚田ほとりや多き芒　蜆渕

谷田

草の穂をさそふ棚田の嵐かな　月丘

打うけの谷田へおつる櫻かな　黙巣

谷田まで[illegible]入まさる水の秋　一蕙

小社を独りかけたる谷田かな　荷乙

○田中

すて苗や田中の庵秋近入口　白雄

人影や田中の墓もお正月　美知彦

人はなり田中[illegible]てきさの秋　蒼虬

[illegible]渡る田中の柳哉　[illegible]

○田舟

彦星をまねきて又田舟かな　守三

田舟にも水の流れの木芽哉　守橋

繁田

清水の田も底つくす土用入　美知彦

繁き田八尾まで底さへなし　護物

○浦田

清影借る浦田哉　守橋

十月や浦田のくもる鳴る雀　春路

山田

それよりも蓮のこゆる山田かな　篤老

鮎走る川濁る山田の余所哉　黙巣

螢や山田の水をひくやす　霞邦

雨二月芒も水も山田かな　可景

夕立や山田の畔の草艸　淡水

古江
嫁入の雪のちらちらいはれかな　樗堂
さし汐や古江の雨を時鳥　茶佛
晴よきて夕霧霞む古江哉　一肖

○古池
古池やぬるみて都鳥、印し　保吉
草深き池の秋しほるゝ蓮葉哉　丘高
小夜時雨古池ふる鷺おもひけり　伯先
古池や浮葉のうへの五月雨　寄渕

深田
翌ちる深田をわけて中の川　美ち彦
さゞ波の積入る深田かな　護物

○古田
苗ゆるゝや古田の末のくろ　素童
壬生寺をいでゝ菜の古田哉　一肖
山水の夕くれ侍る古田かな　護物

冬田
いそかしき人まちくや冬田つゞ　保吉
頼つる葉として残る冬田かな　一化

蘆江
たもと江や雲毎にして鳴鴫　召波
蘆江や風の行への枯の原　白雄
こもり江に鴈の出ぬ夕月の宿　一肖

○澤田
澤の月深田の人は夕もとる　一化
何捜す深田の通し鴨　東芽

水田
さゝら水や水田をならいつかまゝ　樗堂

いつまでも水田の人の妻の月　蒼虬
しら鷺や千田の中に立蜷　年緒
たち風や水田の家のあさ簾　挹芝
かはほりを夕葉へ入し水田かな　茶静

溝田

こなたより田や雲に笠見て掉る哉　大鏡
溝田の汐に退く鮭かな　護物

○新田

秋の田に痩て帰る坂もなし　古 政二
新田の家もふえて萩露かな　加賀 其翠
見ま川や新田に火を焚て　菜静

○脊戸田

鴫の声脊戸田へ出て見る　攝 美ち彦

雪なから起し脊戸田の根芹哉　木葉

武蔵 ○印旛沼

青柳の纒るゝ中も印旛沼　汶水
名橋の流れ水や印旛沼　里磨

越後 ○岩澤

岩澤や水に退いて花ちる柴　美ち彦
岩沼や羽つく鴫も見えぬこそ　且臺

山城 鳥羽田

京の鴫もみえて鳥羽田の穂かな　二柳
鳥羽田に八時白鷺し水葉舟　暁臺
時雨にも土おく鳥羽の田口かな　少汝
いね妻に鳥羽田の鴫の白さかな　元風

○相模 児ヶ淵

鶯の来りてなけり児〻の淵　下総 青岐

鳴こゑは波の日暮や児〻の淵　星霞女

六月や松葉ちりしく児ヶ淵　ちか女

○甲斐 鰍澤

柳樽や鰍のすみなすかしら沢　恒丸

七夕の岩にかゝりや鰍沢　守橋

○武蔵 金澤

金沢ハ夜も千鳥は勝沈の水　美ち彦

金沢や秀に浪来る影ところ　渉明

金沢の景のけしきよ明る雪　あさ女

○仝 鐘ヶ淵

明月やちんまきゝし鐘ヶ淵　宗讃

春の音は浪にかへるや鐘の淵　小園

○下総 勝間田池

勝間田や蛙川にハ声なかし　大江丸

勝間田の池に五月雨ふりしきる　汶水

勝間田は池に柳の露こぼれ家　林風

かつま田の池より暗りの雨鮭　南涯

勝間田に水揚て青やかんて雨　月露

信濃 田毎

葉のちらまさり揚る田毎哉　松兄

水の手や田毎にあらぬ夜の月　有臺

雨の夜の曇りよい水ぬ田毎かな　杜英

住ところの雲まてふえる田毎の水　梅壽

田毎より移りへきする千鳥かな　玉光

越前 玉江

いまや帰る玉江の蘆の穂に　士朗

蘆越や玉江の月をとまて　一宵

芦伏て露を結ぶ玉江かな　其翼

卯月の玉江に蘆を束ねけり　詩帰

日ごと中に玉江の露や芦五尺　梅壽

摂津 浪花江

あさまだき江やものうき菖蒲草　大江丸

難波江や何変らぬ夜の月　九十

あさまだき江の昔語りや月の雨　巣二

武蔵 ○姥ヶ池

[illegible]て虫は鳴くしなくの池　谷雄

[illegible]の蘆紫苔や姥ヶ池　木雄

[illegible]に出し蝉の生まれや姥ヶ池　[illegible]

草の實は盛りて落し姥ヶ池　希拙

駿河 ○君澤

君沢は業螺は飛ぶて淀の雨　宗讃

[illegible]淀や蓑着て見る春の雪　阜池

近江 真野入江

鶺鴒や真野の入江の雲の霧　春路

鳴きやまぬ真野の浦に時鳥　箕山

花の雲真野の[illegible]　護物

摂津 浅澤沼

浅澤や杜若咲く風の筋　宗讃

水や[illegible]浅澤のかきつばた　玉扇

[illegible]浅澤や[illegible]　美知[illegible]

下野
○阿曽沼

かくれ沼や鴨の觜ふる日のくるゝ　孤山

かくれ沼に鷺の影なし嘘ならし　大江丸

かくれぬまや螢も出ぬかけをしらく　巴蛍

陸奥
浅香沼

草新や浅香の沼に雀の子　巣兆

なけ田螺雨の浅香の花の伯　雨考

さかの月浅香ハさても沼ならん　默巣

鶯の声も浅香の木すゑかな　雨蘋

鸛の巣もあるこの浅香の芦かな　菊角

大和
猿澤池

はつ花に月を稀なる猿山か　存義

さる澤や池をまくらの華の月　谷雄

武蔵
○鮫洲

さみだれや時雨のさかりも昔なく　雨例

凉しさも鮫洲の濱し汐はや　雨塘

村雲の覆ふもあらぬ鮫洲かな　粗文

百合赤し人のかさ引鮫洲道　恵竹

仝
挟山池

挟山の池はや花さく花の夜　鮭堂

池ちる挟山月ハ昔まゝなる　江戸　如水

雲くつるさ山の池や土用入　沙明

信濃
○櫻澤

雪ふる夕春ハ桜なんちらし澤　竹人

水くやしちるハ若葉の櫻澤　護物

相模
○鴫立澤

人影や鴫立澤の夕ひかり　甫尺

武蔵
○不忍池
池ノ端

さゝら波中にも鴨の川原急ぐ　田美

蛍火や鴨の川原の草の雨　南涯

鈴虫や鴨の川原の松は秋　嘉女

志のゝめも汲まるゝ宵の蟯かな　宗讃

志のゝ沢の五月雨を鳴蛙か菊　草夫

様むしろ蛍寄し池のはた　菊所

志のゝ径や松の嵐か蓮の香　文口

不忍や野に揺れゆく池の楽屋　鹿尼

山城
廣ノ澤池

むら沢に連まち寄る東の庵　天外

廣沢はまた水茎の二月かな　麦阿

むら沢や一輪ゆるがぬ月さむし　蒼虬

廣沢やさしく字か人こゝろ　明良

加賀
廣沢へおちも落葉す簾の香　雪人

春

水

○井之部　若水　温泉

若法の水研ぎ置く二人まちまち　擣堂

清水に跳ねさる比出見る東の香　素檗

隣から来る人むらや寄る井水　乙二

濁る水に散まのうつるや東の水　鴬笠

人の嫁まつ迎まさくや東の香　皞兄

忘水

忘諒の初ゑくさ忘れ〳〵　召波

ちるの木や桔の垣かのまき流す　阿今

三日月ゆえそ桔やの忘れ水　茶静

菜の花を尻目に通ふ人の水　蒼虬

筧

筧より水はてなく早苗かな　阜堂

風止て筧は谷越せかぬちの水　草雅

月の筋を筧のたつ手霰かな　忘径

竹桂ん筧の基を中にして　讃物

○筒井

梅の香やいまた筒井のなかるゝ　羅含

草の香や筒井まはつる二ツ星　一司

和加都
亭井也

埋水

夕立や流れいそくるもまた水　白雄

月や縁る深山の草の埋れ水　大鏡

井出

人憎る乱髪飾も来ぬ井出の床　義長

車の跡や井出を流るゝ水の垢　甚翼

山水

山水やさくら散る夜の音　蒼虬

雨溜や山水も来る人の河　十丈

山もとに移る苔衣のほし一ツ　佛朔

山水の音して来の消え残る　紫明

山ノ井

山の井に浮く人のもる秋　義長

山の井に望まで移る茸の月　乙二

○古井

山の井やうけもぬきてやるくは　雨彦

山の井をすさらけるる鹿子かな　長水

山の井ハ汲ともつきぬ人そこの春　兔六

ふる井戸や蛙に魚の青かはら　蕪村

日の影や古井に木瓜の咲入し　保吉

水上

水上ハとくも雲ちて行るもちかな　儀民

水かミハ草水にかくし人の数　多代女

水上たてる雪にかくし春の風　禾木

○上野 伊香保湯

馬ノりて伊香保へゆかん菖蒲かな　巣兆

翌のほるいたまうして風見えし　一具

温泉嵐の湯やいそのの夜衣　三生

走井の雪ふ寄するさくらかな　士朗

毛とこの毛と走井の桜ふ　暁臺

走井やうれしくさる初ゆき　樗堂

近江 走井

走井を一杓を汲ふ枕かな　三生

武蔵 遊水

遊水に遊けらまし小鴨か　春暁

遊水の水際のさえよかんこな　入船

小けれハ遊くちまきの柳哉　松語

○相模 星ノ井

五月雨にありつる嬉し星の井戸　聴雨

夜をこめて茶を昔や汲の井戸　柳囲

影うつる水にすゞしや星の井戸　壽丁

かくれ家の井に鳴虫も星こよひ　義彦

武蔵 堀兼井

梅さくや堀兼の井のほりし跡　汶水

堀兼や雨にもあつくさく嬉　一啄

伊勢 忘井

わすれ井にちらりちらりや花の屑　素芯

忘れ井の名にも門や木葉ちる　小園

忘井の水に浮けさす椿かな　護物

○武蔵 井之頭

榛ちるや小八咲てん井のかしら　義彦

さくらの花や玉川井のかしら　逸山

梅か香に残る月も井の跡　一肖

木兎鳴も来ぬや時雨の井の跡　護物

○仝 御茶水

初雁の影しつもりけり茶の水　凡六

舟ゝ来や宵照らしの御茶の水　岸橋

常陸 恩潮井

思潮井に二葉ちるや浪しぶき　古梅夫

おし日井のうへみなゆるや春の水　上野 乙人

○加賀 山中温泉

山中や楓の湯を嗅宵の入　甘行

山中や月もまじる温泉の流　護物

山中や湯治もとりは折る菖蒲　宴桂

下総
真間井

真間の井ハ紀ね葉に渡らし芦のもと　獲左

真間の井やむかしを今に志のふ草　蓼太

耳うとき蛇はめくりぬよ子見の井　萎房

夜の水を汲しもよ子見の井　多代女

芦の穂や真間の古井もそのまゝく　林松

山城
縣井戸

かはつ井や夜を稲妻の落る處　星谷

近江
醒ヶ井

[illegible]の井　禾木

醒ヶ井の名にも冷たき風の味　蓑亭

さめヶ井の水を白雲や秋の空　斗南

醒ヶ井の草に[illegible]　東水

未何允由
比世寸

醒ヶ井ハ[illegible]　祇山

相模
○温泉地獄

湯地獄へ提てのぼるや木芽[illegible]　午心

秋の[illegible]や温泉地獄[illegible]日の[illegible]　寥松

武蔵
○姫ヶ井

姫ヶ井の[illegible]や[illegible]の[illegible]　妙扇

星の[illegible]の掃除もうけ姫ヶ井戸　梅壽

山城
芹根水

青空の影や芹根の水ぬるむ　玉光

芹根より一筋[illegible]　護物

近江
関清水

[illegible]雪や関の清水も[illegible]　巣兆

[illegible]の清水[illegible]　寄渕

信濃
○諏訪湯

諏訪の湯の水面に湧ぬ五月雨　長翠

諏訪の温泉にひたるや花の七日ほと　曽洲

明月や京より何つ三寸八の温泉　逸水

旅寝や諏訪の湯乃の月のよる　里濤女

名所千題集巻之四

○春海

○海之部　并浦濱

何しもとの夜明ハ志ら浪寒の海　蔦三

涼しさハいつまで仰ぐ潮の海　菜静

山寺のうちに見ぬ春の海　可景

春の海帯ハめの音にしつま　宇橋

濱邊

座敷に見えるへる濱邊哉　寄洌

童ハ牛ひくゝなるの濱邊哉　梅塢

濱風

夕凉風や子を中にして座の花　玉蓮

さゞ浪にも浪にもえたはず鷗 栖　麦洲

濱風に吹かれて寝るか窓古舎　護物

○濱庇

秋風や芒も声のまじる鹿　白雄

白くめや風のこゝろに濱ちどし　免川

猫のふすまきるや春く濱庇　何恵

頬むくや秋日浮るゝ濱庇　奎議

浦風

浦うちの松ふくかぜや夜寒时　大鏡

うら風や松も春その耳の底　茄乃

荒海

あらうみやをのが難て秋の風　標堂

荒海のうみ目にうゆる日影かな　一種

秋ノ海

かくうみのちからに及ばぬ小舟かな　阿恵

むら雨は過ぬ夜なきかぜの海　音人

くもおの一際ゆくや秋の海　茄乃

○塩濱

塩濱に人の動いて秋の風　蒼虬

塩濱の波のてらす辞て小舟かな　黍里

塩濱の波のおしいれ日和や盆三日　護物

伊勢
伊勢海

花のくずに海すみし夜も桜　暁臺

明月に明るゝ伊勢の海　百池

虫くゝ果やすりておらむ伊勢の海　空阿

遠江 伊間浦
さゝ抑日ころり花日さへいさの海　百堂
蛙とかやとゝと風し伊さの海　箕山
奴のまつやいまの浦家の夕千鳥　葉静
屋むかしの松霞ミ今りいまの浦　亀貞

仝 ○今切
今切ハ一日霞むきししきゝ哉　一樓
今こゝ水や霞るてうれ小六月　小圃
いまさ水やみこえまへ蛍て鹿の声　白賀

伊豆 ○伊豆浦
今切や数日のうへ鉄ふしの山　護物
鉄多のいつ来て居ぬ伊豆の浦　蓼太
伊豆の浦や霞つまはく浦の床　鵜道

仝 伊豆海
木枯の箱根にすまや伊豆の海　太祇
夜まこ伊豆の海つらそえぬ也　大江丸

上総 千種濱
浦の名の千種よむ人星の霜　杉長
名残や千種ハ霞ま濱つゝき　里丸

陸奥 千賀浦
美桜にチ賀の汐風志らすす　玉屑
ほとゝぎ暁千賀の浦さくし　淡路 青岐
梅んても宿空千賀の浦　谷雄
菖蒲の手や千賀の浦　八木
末りハ鉄もうら蝶千賀の浦　國村

武蔵 ○乙艫浦
まゝ芦や[illegible]　美ち彦

紀伊 和哥浦

秋かせや鶴の汐の久し雨　志乃

夕霧ハ漕の音くし和哥の浦　擣堂

田鶴の声よしく露ぬるの和歌浦　月居

鶯も老ハゆるさし和哥のうら　星谷

汐干るや霞くる毛のの浦　梅壽

しほくさや月しるく和歌の曲　玉光

尾張 呼継浦

よひ継の浦に人なし秋の暮　雁路

呼つきし浜を空井に星合宵　碓嶺

丹後 与謝海

初霜や雪越のゆるき謝の海　一背

いなつまのくり返すやよさの海　玉光

駿河 田子浦

明星のかくるゝ霜や田子の浦　其文

六月の山やゆるむ田子の浦　花友

夕さむし藤紫にむまし田子の浦　一路

不二まはし田子の若菜の杜若　一種

加賀 竹ノ浦

一磨の鴨も汐日のちりくれの浦　呼亭

鳴くつるまち鴉ハ見えし竹の浦　弄化

備後 璵ノ浦

ちどり鳴いて夜を遠すく玉の浦　耳行

名月にゆくへ路も玉の浦　菓二

陸奥 外ヶ濱

虹の橋や瀬戸越のそとヶ浜　越児

いなつまや海を隔てゝ外ヶ濱　野鴿

伊勢 ○鼓ヶ浦

濱の名をうつゆく年かおかゝ濱　護物

夢うつゝや波につゞみの浦も秋の春　闌叟

風そよぐやうつゝ鼓ヶ浦ちる柳　玉光

ながき波や下波千引の春　丹行

越中 長濱

ながき波や松の梢も春日和　雪観

長濱とながき清水の花　茶静

ながき浦や人のけしきて桜の花　志紀

長き浦や霞渡りて汐の来る　砂粒

仝 名古浦

雪の日や降ほとゝぎす名古の浦　草均

出る月や様なりのさゝ名古浦の宿　丹行

越後 名立濱

老らくや稲まさり推も名立濱　美ち夜

おもしろや名は名立の波の中　迦孫

武蔵 六浦

春過ぎて六浦のさんなや禁　巣兆

もろ是て八景のうち六浦の時雨　安成

鹿のつゝみするや六浦の子規　了湧女

青刈の萩や六浦の秋もよし　護物

越佐 ○親不知

海松ふさや径まよふまる秋の浜　白雄

ひろびろや杖の行厄も秋しらん　玉屑

汐風やいちこ六浜の親不知　菖古

秋の暮追まて越路や秋の浜　信濃 如水

上総
黒戸濱

涼しさや竹の香や秋しらぬ　護物
稲妻や黒戸の濱の松奥つゝ　雨塘
東国ハいくま黒戸の濱世界　一壺
薄月やくろ戸の濱の烟催ひ　其芳

仝
九十九里

砂ふるや萩の日うけ秋九十九里　沼人
九十九里の月のおもてや郭公　元安坡
打よする波の白さよ九十九里　寿代
霞ふ千鳥濱やところ／＼九十九里　里丸
枯芦の上千鳥や九十九里　芝 万里

豊前
柳ヶ浦

さほ姫や柳かつらる秋波よる　一宵

播磨
舞子濱

初かすみ柳ヶ浦の東明から　箕山
月の夜ハまひ子の松の下菫　美ゝ彦
明月や舞子の濱のかゝ舟　一水
さほ姫の袖さへしらず舞子濱　雲布
人をんでちるやまひ子ハ松の雪　杏臺

越前
氣比海

松枝もたゝし舞子の浜しくれ　風二
波の時雨ぬ吉さや氣比の海　呼亭
沖ゝ鳥も日和定めぬ氣比の海　松杜

伊勢
二見浦

得きん月の二見ハすまて　蘭更
系もうくかくしつる二見の日　美ゝ彦

久矢来 計不

陸奥
○吹浦

青峰と云ん二見の初さくら　蒼虬
汐さゝや梅ハ二見の花ざかり　省吾
夜の月二見の浦ゝ目よしかも　涼谷
吹かへしひら〳〵舞ふ波の層　乙二
ふく浦や雁も踏ゝ岩の上　岳山
鳴さしや浪のえくしもよりはし　其翼
吹浦や秋漬かけて吉しの露　箕青

紀伊
吹上濱

吹上や松の稲ゝ清秋の色　九十
蕎麦ハ也ゝきらく吹上踏まし　宇橋

讃岐
筆ノ海

月蓮のきしめ霞や筆の海　玉光

越後
越海

月雪のうけやさくし花筆の海　僕物
三日月や越の山も投らつる　猨左
信濃路の名月清し越のそら　阿恵

伊勢
阿古木浦

ゆく秋の小口ゝ寄るやたしの海　夏桂
馬刀貝のちのこころ成きし阿漕が浜　白雄
蛍ゝまもたゞしや阿漕ゝ花のいさり火　尺芥
名月や阿漕の波もよせかへし　常陸 乙人
ゆかしくもあこぎの浦や夢なき　炉扇

越中
有礒海

何となくしも阿こぎの秋や鯨の声　議物
白浪の何まことや鵜も寒き渡て　義ち

播广
明石浦

冬の日は山端もはなれて須磨の海　布雪
名月は淡路を須磨へ渡る海　布施九
有磯うらの今宵も柳ちる　可九
帰り来てつらつら有磯の海士が衣　月毅
行く春や見し月の明石の桜　士朗
五月雨や明石の浦は暗くて　一草
まつ風や霧の明石をこゝろもち　屋烏
須磨を先す時や明石の時鳥　蔵六
温石のさめぬうちに明石潟　吾長

讃岐
有明濱

有明の浜やさよふけて　蒼虬

阿左
喜由

佐渡
○佐渡海

有明の濱涼しさや雨　玄鈴美
木枯や夜も明の佐渡の松　舟静
水無月や山の手佐渡の海　標良
いなづまの浪のうへ渡や佐渡の海　箕山
雪雲の岬を越ゆる佐渡の海　夏挂

豊前
○菊ノ濱

明星も霞のおくや菊の濱　栄静
秋風の吹きて花出すや菊の濱　箕ハ山

相模
由井濱

みしか夜や足跡浅き由井の濱　蕪村
寄る浪に追はれし秋や由井の濱　亀貞

但馬
雪白濱

しら濱の名も白くさゆる也　保吉

摂津
三津浦

駿河
三保浦

此濱の隠家の梅ハ咲にけり　美支房

志ら波へ磨の出て影月夜かな　恒丸

白濱やさてハよろりし秋の風　蒼虬

志ら濱や出ぬ天雪を見るべし　宇橋

月見し千網寄よ三津の浦の春　月居

嵩の花流るるや三津の浦　葛居

子よの影て汐干ますや三津の浦　玉光

笠置き雪の時雨の三保の浦　玉屑

網むく小屋も寒さや三保の月　芳之

浪よけかて三保まで行かん衛かな　古推

伊勢
○白子濱

武蔵
○芝浦

陸奥
鹽竈浦

ふりまきて涼しき三保の月夜哉　繁里

盃の手に涼しきめ三保の浦　三生

霞まくや磨のぼるて白子まで　美支房

いさ秋や白子の濱の松の花　桟車

春田かや白子の松一際こき　万里

芝うらや志くまで帰る牛の角　芝 白雄

芝浦や霞み東照る新の春　伯夫

芝うらや積る晨る春ごころ　奎議

鹽竈の浦さびしさよ五月雨　藤光

鹽竈の篠ハ小さし春の月　箕山

摂津 須磨浦

花さても泣かしけり須磨の浦　二日坊
須磨やあまきひとる猫の恋　光堂
東ふくに藻葉ちらさん須磨の春　魯隠
鮑貝のすゞ浪うつや須磨の秋　守豊
鶯の啼ふしてや須磨の雨　茶静

仝 住吉浦

住よしや夕の色なるまつく朧　大江丸
住の江の鶴もとし寄る浦うみの鳴　樗堂
住の江の浪うら玉よ南とささす　涼濤

近江 鳰ノ海

○湖之部

初雪の手合もよろ色鳰のうら　米彦
友鴈やいとゞ淋しく鳰の海　女 杏満
雪の日も七ツ下りや鳰の湖　丁當
いさり火も色の名残や鳰の海　宇洋
夕月のくまも持ぬか鳰の湖　春雨

仝 堅田浦

五月の人稀にしや堅田浦　布雪
汐ふくや堅田へ走る春の月　木雄
水静鳴雁や堅田の水尺舟　石海

仝
余吾海

くら田とし水鶏のおく軒小挑灯　若人

末ハ秋の猶もまもし櫻田浦　一摟

稲ハけさ一隅ハけぬ余吾の海　素童

柹咲の咲きまさらん余吾の海　谷雄

縫絵子の掃て行る余吾の海　守橋

下野
哥ノ濱

羽音の音聲ふ来鳴うらの濱　祇山

波の色も老ハ秋てこゝへ哥の濱　梅壽

遠江
○猪鼻湖

猪鼻湖の吉先ハけて柳　沼人

おもて飛湖の菓屑干河の濁白志筆　玉光

猪てふ湖の角一かや久軒霧　禾木

旨字井
矢不

近江
矢走之浦

菜の花よ飛出仕舞ぬ矢走之舟　蕪村

いさよひや山田矢走八ッ時のやこ　于當

筋違に渡りの付し朝矢走ゆ飛　貯江

落付て矢走をとるる霞ハ那　雀子

山ハせの矢走へ寄とすきぬ氣来　多花女

越中
布施海

いねしへも月いねしへも布施の海　蘭更

よ代つ代の露やまた元て咲きの海　甫尺

一層ふくや東汐のてぬるふきの海　一肖

藻の花も小舟きく布施の海　其行

椿ハ末てふとてうへるや布施の波　眉洲

近江
湖

仝
志賀浦

信濃
諏訪湖

湖の明侍つく清らくらの秋　夜鹿

湖の表を押分て鳴故哉　杉長

湖の中にもさゆる清の水　茶静

故の春しやよほの湖紫に水く　秋兒

おく霜の乙鳥まて明る湖水哉　護物

志賀の浦や古きゝし秋郭公　一肖

水音や夕日とゝける志賀のかく　禾木

さゝ浪乙や土のうけちる諏訪の海　岳輅

飯良いの包まてくのすハの湖　巣兆

卯の花の露も日をるゝすハの湖　微席

黄鳥もいつ先をかく諏訪の海　阜池

青柴に冨士やさしきすハの湖　士朗

○嶋之部 并潟磯岸寄濱迫門

○磯家

いなつまやいつまで磯家ハ浪かゝる　白雄

枯尾花ゆらんてうらさし磯家かな　寄船

霞はなるゝもちて雨ふるいそ家かな　沙明

○磯邊

磯邊行舟や夕日さす浪の音　秋守

戸をさしてさゝ月にあそふ磯邊かな　羅會

霜風やいそ邊の軒のさし汐に　奎議

○遠浅

遠浅や水の中なる雲の峯　谷雄

遠浅や海苔舩掛て二日月　一具

遠浅や浪の千鳥のこゑはしる　萬古

川嶋

川岸や春雨の庵の古氣色　保吉

川嶋もの古る雀の庵かな　素芯

川嶋や足もとつけぬ芦の角　竹人

○小磯

春雨や小磯の小貝ぬるゝほど　蕪村

ちらんとて咲る小磯のちる桜　美ヶ彦

荒磯

ひるかへや沖まてさまて梅の花　士朗

荒磯いそや岩にさゝる鴨の声　蒼虬

あら磯や汐にぬれてる鵆の聲　一具

荒磯いせや梅よすかうに汐ゆく家　一肖

嶋根

のどかさの世のうれや嶋根行鴨子　郎鵬

亍深

発坂をも志らぬ嶋根の起居かな　箕山
く語ぬる方ゑ小春の嶋根の菊　東海
船よみて亍深のすゝめり行　菱垣
亍ろうそ吹つめらり亍深かな　阿悳
亍ろうる志らぬ居汁くさくらかな　云語美
菜の色や亍深つき社松立家　護物

伊勢
伊勢嶋

いせ嶋の松魚つるゝ牡丹咲　三化
伊勢嶋の雑八掛汁く便りかな　淡水

志摩
伊良子﨑

唐へ出る行やいらこの青嵐　柳居
竹雁みうぶ木やうへかいらこ﨑　美知彦
末枯の一度ゟ郡や伊良子崎　諦帰
以部畫あや牛も埋あきいらこ﨑　炉扇
汐しさへ在の色ありいらこ﨑　大梅

伊豆
○伊豆嶋

本折や赤石山も伊豆の波　宗讃
志ろ末のや伊豆の小嶋ゟり煙　元雪
一線の筆跡波にも伊豆の嶋　護物

武蔵
庵崎

庵崎の松風をきん年の暮　宗讃
暮寄の雨は波たゝの夜の雪　袁丁
いな寄の蛍もまてこの うる哉　元風

筑前 筥崎

稲妻や松にかゝせて浪よする手水　玉蓮

いなづまや人のすかたの川霧　女 大坂水

さゝ波や帆影をとめぬ松ばかり　寄渕

箱崎や浪より白き露の宮　一甫

はし崎や見ゆる須磨をせゝりの浦　舟静

箱崎や牛の往来ふく花しるき　茶静

播磨 播磨潟

さゝり潟松葉も雲の吉むしろ　羅含

あま天守の霞待つやさゞれ潟　箕山

尾張 星崎

浮崎や浮き川まてのほとゝぎす　士朗

星崎や後をこゝろに雁の声の雁　素芯

星崎をよぎるや浪の天の川　不轉

おし崎のむらきも舟や浮きの秋　茶静

星崎の雲をさしまる柳かな　奎儀

志摩 鳥羽嶋

鳥羽崎や鷹井ほとく門の夜の月　無牛

鳥羽崎や日くれてあがる松魚釣　春路

伊勢 小野湊

小野ゝ浦の汐干あかりし鴫の声　耳流

風や小野の入江の汐干狩　越児

陸奥 雄嶋

まつしまのよそに旅路の袂かな　美鷺

存ぬる宿やあさしまの昔の花　曰人

赤つらしとは旅寝の暁かな　點巣

伊勢 辛洲崎

春の夜の雛が嶽に消えん人　亦芳

何となう中の雄嶋の時鳥　素撲

蝶追の辛洲の桜ちるかな　士朗

暮うつて涼しさいやつゞけ夜　芰花

清辛洲の松も東寒き霜の音　巣兆

渚にて秋の花いろ松葉ちる　多代女

常陸 鹿島

清辛洲や何まで人も老の連　美佐女

秋の雲鹿島の路を見渡しけり　政二

明月や水もあまねく鹿島崎　谷雄

何となく千歳の鹿島崎　涼谷

何の浪や春の荒崎のいさゝかに　白光

稲の色の雲の末なる鹿嶋川　完風

近江 辛崎

辛崎の雲をとゞめす扇かな　茶静

何年の辛崎は眠らぬ菊　菊塢

から崎や月を眺めゆく鳴の声　長桂

辛崎へ月は落ちて寒の川　護物

陸奥 笠嶋

笠嶋の人の笠見て花薄　乙二

雲雀出て笠嶋の田を返しけり　一瓢

笠嶋や畢竟月を見逃したり　禅阿弥

雨降りし大路の笠嶋見えにけん　鶏周

越前
○鐘ヶ崎

笠島山や時雨の空に吹かへり　箕青

まつ葉ちる海に差汐や鐘か崎　木雄

行春も霞に残る日の崎　箕山

大年や波もきこゆる日の崎　亀貞

備中
神嶋

神島や昔は雨を寄つらん　其行

秋島や寂ある月のうめの声　友桂

筑前
鐘ヶ岬

名残しき鐘の岬に尽しけり　石蘭

北は春星てる日の岬の菊　花縣

よる波のしくしく鐘の岬かな　春路

仝
○桂潟

来るみの雲に横おけるつる潟　茶静

明わたる夜の波たゝやつゝ潟　旬光

摂津
田蓑嶋

草の香は田蓑のわたりに嶋子鳴る　星譜

さくらの頃は田蓑の嶋の菊　米佛

夕白や田蓑はさくら島の月　吹角

鴈鳴や田蓑の嶋にふる雨の　輪之

鶯や田蓑の声を踏出して　箕青

安房
○大夫崎

飛てふの尾に付さし大夫崎　逸山

涼しさに紛る〻鵜や大夫崎　旬光

摂津
○築嶋

築嶋や雲もすさまし應て明　東芽

夕はるや築し波間の〜煙　午心

○武蔵 佃嶋

築嶋や波に追れてうかふ岸　春路

汐まても出ていさよふ佃嶋　東芽

ところところ家なき中も佃しま　はる兎

明月やとの葉かけ見る佃嶋　都山

ありつる居よ汐くるる秋の夜　春路

干菓子に波の音きくや佃嶋　梅壽

○仝 夏嶋

夏嶋を扇のうへや四畳亭　美彦

夏嶋や見えすゝめる波の音　玉光

阿波 鳴門

鳴とのみ鳴門の音や秋の月　大江丸

菜をむき朧ろ月よる鳴門かな　屋烏

秋の日の鳴門へ落てうき渦　九十

花ゆきに出るも鳴門の名の月　燕三

ものとよく見るや鳴門の音　布雪

○武蔵 向嶋

月涼し花の身よりの向しま　白雄

寒さ涼しや清き水の音向嶋　月窓

川越に来て見とれつ向嶋　冬亀女

いちじるや夕雨の後むくろ嶋　玉鉉

○相模 鵜島

おしけ鵜鵜嶋の松も波まき　星谷

ゆふもしく鵜ばかりて月涼し　小園

○武蔵 牛嶋

牛嶋のかくれ苗の葉伸びて　宇橋

上総
海上潟

たとしへなし世を牛崎の草の香　梅塢

牛崎をとほりぬけたりつめの色　奎議

五月雨や海上かけて子ゝのさま　雉扇

東のうねやかゝる潟の底明り　里丸

沖ゝ尻や海上かけの鋸の声　夏桂

肥前
○梅ケ崎

さみだ雨の漏る泉もとなし梅が崎　義彦

年ごとにきたりけるなくしうめが嵜　昭眉

よしきりやものゝ付けりの梅が嵜　牛乳

武蔵
野島崎

明ゆくやとこもと崎のあとしらぬ　東芳

水鳥のはしる田寺野嶋崎かな　文綱

安房
野嶋崎

積りの東北崎の其夏八房さらし　田子

野分や此崎か浮の浪も降る　其桂

鮑つける舟や此島の岩がくれ　逸山

能登
○能登岬

飛びかはす和の雁子此し波か明　越児

九月尽遥子能登の岬か明　暁臺

いなつまや能登の岬をさしらん向　玉光

秋風の中子なりけり能登の鼻　譲物

讃岐
○八嶌

夜見る八崎の波や角とりまなぶ　樗良

蟹とりもなく紀八島の出秋　玉鉉

舟の跡子月浮へる八島の明　箕山

山城 槇ノ嶋

桂の[illegible]鵜舟かな　暁臺

[illegible]桂の峰　素芯

[illegible]の夜の枕[illegible]の峰　希名

[illegible]や一雨かけし郭公　美[illegible]

武蔵 真崎

[illegible]や雲の[illegible]下[illegible]　且臺

陸奥 松嶋

[illegible]身を松嶋の月の中　斗入

松嶋の秋は[illegible]　長翠

松嶋や[illegible]の花菫　曰人

まつ島や[illegible]　渕香

[illegible]奥の千松嶋　一兆

籬嶋

[illegible]連[illegible]　乙二

[illegible]籬[illegible]巣や[illegible]　一具

[illegible]　一肖

肥前 松帆潟

[illegible]河帆潟　千賀妖

[illegible]　玉光

六月の[illegible]や松帆潟　茶壽

伊勢 二見潟

[illegible]二見かな　擇良

[illegible]潟　士朗

千鳥より月より出[illegible]潟　恒丸

初汐に[illegible]二見潟　馴賀

仝 藤澤

藤さはや紅白よりも萱薄の花　知牛

藤澤やもし白き藤のくさ　嵓桂

藤澤や水も秋郷の夜露哉　護物

相模 小余呂岐礒

たゝ浪を秋雨となる芦の鴫　田都喜

こよろきを生姜の白さに千鳥哉　露竺

小余呂岐の松吹寄る家の月　永枝

たよろきの礒いそしきや衛となる鴫　元岱

世並咲く漕よろきの浪かな　茶静

安房 小湊

小湊やも東風に吹れて砂乾く　禅阿弥

小湊や汐の明りも梅の花　林松

信濃 衣ヶ崎

ちる雪や衣か崎をゆく先を　素檗

霞にはすゝしもか崎や時雨　谷雄

安房 安房岬

何もなき安房の岬か東の雪　白雄

木枯を慨ゆる安房の岬か船　越児

常陸 扇島

船の行のかけ出て涼し扇島　旬児

末料から光り秋の海ふる嶋　護鵜

播磨 明石潟

日ハ落て波も明石の夕かすみ　擣良

年寄の夜市に役ろ仰かし濯　巣兆

秋の日や落て残る明石かな　蔦巳

仝 明石灘

出る月をつまでて日毎とし明石灘　寸行

淡路
淡路島

五月雨の水は涼まし明石潟　奎議

三月や夕日に浮ぶ淡路島　也菀

水無月や時雨もやミの淡路島　星谷

手放さで淡路へもどる柳かな　茶静

冬の日に淡路へ見ゆるや雪解る　摘壽

下り来る雁も淡の東も旅から路　可景

甲斐
指出嶺

見ゆ秋に流し出の嶺の雁かな　大江丸

芦の芽は雪し出の嶺や小雨晴　五芳

大峰や流れての波へ来ての行　涼谷

佐渡
佐渡嶌

五月雨や根に来て見る佐渡が嶋　路大

蛙の来て日永に来ぬ佐渡が嶋　谷雄

上人の影も消えての雪の佐渡　弘彼美

寂しさや佐渡へ見する庵の灯　守橋

行く海の佐渡ハ霞の奥もなし　素鶴

駿河
清見潟

見渡せば夕立さえぬ清見かな　暁臺

春風や松もあらさず清見潟　一擅

不二を見て浪只白し清見潟　奎議

出羽
象潟

蚶潟の月ては見るの水鶏かな　童厚

象潟ハ豆の露踏る跡かな　長翠

寝やかや皆家に来て潟月の露　淡路 青岐

豊後 ○和布刈追門

象潟をこゝろにて中し白扇　茶静

來さしるは柳ハ波のうへやころ哉　ちの記女

葉ゞに懐る和布刈の追門も浮手香　九鳥

ますますや追門ハめぐるの烟かつき　玄諸美

駿河 三保崎

三保ヶ崎も霞てゆかし帰る雁　亀月

水のうへに霞くらしや三保ヶ崎　里衛女

常陸 信太淳島

うき島や和葺とうちも中に有　午乳

枕そりや浮島にものとくく雁　竹童

豊前 姫嶋

姫嶋に扇かざしぬ浪まくら　斗白

姫宮の松より来し舟の汁　旬光

伊勢 酢我嶌

なでしこの姫宮八表の波越ん　とゝ女

酢我嶋の真石みゆるや土用明　千年

すゞ虫の声白うなる雲の影　亦玄

武蔵 ○洲崎

手をつくし浪しら霞て洲崎かな　蓼太

筑波ねはの海崎に千香来く夜ゝ旬　雨彦

菜の花は沙に波うち海崎哉　沙明

○津之部 泊 淀 堤 畷

山城 ○鳥羽畷

水うりや犬に追はるゝ鳥羽縄手　斗月

云はりほや巣花のもとは鳥羽畷　市仙

ワの中や旬のゝ人ある鳥羽なとき　駿鳥

備後 ○鞆津

鞆の東八日けむりのし繖の音　清客

あく衛とも秋浦風吹かはくは　詠帰

かるかやや鞆の小舟の傘の数　護物

紀伊 ○加田泊

ふるさとに鮴つる加田の旅籠かな　白雄

焼鰻や加田の旅籠の引落し　壽翁

すゝ風や笠ぬく加田のおもてなき　一樓

繖さゝぬ加田の小宿やきぬきぬつ　葉舟

播磨 ○高砂

高砂や煤の往来の着きて散　葛三

高砂や尾上の松も月の秋　杉長

摂津 難波津

なにはづに来そいろつゆめ秋あ　月居

難波津や大きな草の花　平雄

なにはは津や初雪ふるに椽の数　和来

大和 六田泊

人ふ斗る六田の渡しの船　擲堂

柳より流るゝ六田の鮎　守三

花ふんおかし六田の渡し守　半紀

播磨 ○室津

ちや早稲の室に米買ふやかりで　柳居

越中 ○奥津

朝霜や室の揚屋の納豆汁　蕪村
むかしの津や千艘鳴越に郭公　闌更
朝かほやうけ出呼る室の宿　南山
稼きてもみよふ室の遊女哉　多代女
遊よきし葉まても花さけ奥津辺　美ち彦
暮かゝる入や奥津ハ宿のひとまとし　竹人

山城 ○久我畷

黄昏の杜も志くれつ久我縄手　里游女
帷子の東風透すや久我なはて　巣二
初雁や雨追かくる久我の縄手　元鳳

武蔵 ○熊谷堤

名香そ入熊谷のつゝみ哉　士朗
桜さへしらぬ熊谷のつゝみかな　梅壽
熊谷へ二里の渡りや合歓の花　護物

越後 ○鯨波

くしら波手にのあくハせんてや　美ち彦
舟子の越し昔もくしら浪　五晛

下総 ○巨我堤

芒霧仏もくもり巨我の堤かな　省亭
雨さるや巨我の堤のおろし鴫　菊角

仝 ○銚子津

しら浪の水銚子の口に押しる　上毛 乙人
夜ハ奥を咄す銚子の湊かな　禾木

越後 ○寺泊

日やうさん昆布汁さひし寺泊　春鴻
その寺の落葉かくらなて寺泊　美ち彦

九日に香そへて黄菊のてら泊　乙二

坂の露や波にきえ行寺泊　護物

伊勢
○安濃津

夕立の来かゝるや津の町さわき　叢

夕かけや津の町通る小鰺うり　菊角

津の町を京へ帰りゆく角力哉　江戸 其翠

筑前
荒津

扶桑の花をみなく吹やならし津まて　葵亭

木からし新芽や荒津の旅烏　詒明

尾張
○佐夜泊

五月雨や猿さへあはれし佐夜泊　宗讃

水鶏啼佐夜の三日月桃の窗　姜衰

山猿の水飲や茂葉に出ての佐夜泊　鮭文

草の畦に川や白雨の佐屋泊　繁里

摂津
○岸和田

梅さくや霞立浪く岸の和田　和来

春泳の奥花ゆくもりし岸和田　春路

和泉
○牧方

乞ひとり飯に蜜をむいつく走りかな　闌更

牧方の宿にふまれ水鶏哉　青甫

恋のしをり　全二冊　[illegible]大人撰

[illegible]

人事　[illegible]

婚姻　[illegible]聟入嫁入の式[illegible]

支体　[illegible]

人倫　[illegible]

衣服　[illegible]

器用　[illegible]

買色　[illegible]

神佛　[illegible]

乾坤　[illegible]

江戸本石町十軒店　萬笈堂　英屋平吉板

弐号